

デーリー東北

2025年(令和7年)5月17日(土曜日) (3)

特定技能1号取得へ決意

産官学連携プログラム

八工大で留学生入校式

八戸工業大学(船崎健一学長)は16日、国内企業で就労できる外国人技術者を育成する、産官学連携の取り組み「外国人特定技能工



船崎健一学長(前列中央)と建設、自動車整備分野の特定技能1号の取得を目指すミャンマー人留学生
=16日、八戸市

ンシニアプログラム」の前期入校式を同大で行った。来日したミャンマー人留学生10人が9月までの間、国内企業で最長5年間働ける自動車整備と建設分野の在留資格「特定技能1号」の取得を目指す。プログラムは昨年度から開講。受講者は半年間の学

習で、日本で活躍するエンジニアとして必要な知識や技術を身に付ける。地域企業の人手不足解消につながる狙いもあり、修了後は同市や六ヶ所村などの県内企業で働きながら、永住可能な「特定技能2号」の取得につなげる。前期は9月まで。建設、

自動車整備の2分野で、ミャンマー出身の20〜30代の留学生10人が受講する。4月に開講する予定だったが、3月に発生したミャンマー地震の影響で入国が5月にずれ込んだ。

入校式で船崎学長は「皆さんがこの分野の産業を支える人材として成長し、活躍することを願っている」とあいさつ。入学生を代表し、リンゾウカインさん(24)が「自動車整備の専門知識と技術を学び、自動車産業に貢献できるエンジニアになることは私の夢。皆さまから信頼される人になれるよう努力を重ねたい」と抱負を語った。

(向屋敷明)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。